

FASHION NEWS

International Fashion Collection

ファッションニュース

92

LONDON

TOKYO

OSAKA & KOBE

NEW YORK

SEOUL

SPRING/SUMMER

春夏コレクション

ロンドン、東京、ニューヨーク、ソウル、神戸と大阪で開催された82メゾンにわたる世界各地の来春夏のスタイルを占うキーポイント
92年春夏最新コレクションをレポート

世界のファッション発信地は今やロンドン
東京、ニューヨークだけではない。

成長著しい韓国で集結したソウルコレクション
新しいファッション都市の神戸&大阪と。
新興ファッション都市が勢いづいている。

MUSEE D'UJI / ミューゼ・ドゥ・ウジ

FASHION NEWS

International Fashion Collection

ファッションニュース

92

LONDON

TOKYO

OSAKA & KOBE

NEW YORK

SEOUL

SPRING/SUMMER

江苏工业学院图书馆

春夏コレクション

ロンドン、東京、ニューヨーク、ソウル、神戸と大阪で開催された82メゾンにわたる世界各地の来春夏のスタイルを占うキーポイント
92年春夏最新コレクションをレポート

世界のファッション発信地は今やロンドン
東京、ニューヨークだけではない。

成長著しい韓国で集結したソウルコレクション
新しいファッション都市の神戸&大阪と。
新興ファッション都市が勢いづいている。

ヒトを彩るサイエンス
SHISEIDO



恋の企て—沙棗

この世でいちばんおもしろいことはなんだろう。それは、自分の恋。一秒で恋に落ちるかと思えば、数年かかってアッという例もある。同じ恋はない。すべてオリジナル。おもしろいはず。恋が自分を大胆にする。香りに時間を傾ける。なにか、恋を発信しているような気分になる。恋そのものが香りとなって浮遊する。香妃伝説から蘇った沙棗(さそう)花の香り。恋の不思議さにふさわしい新鮮で官能的な香り。ハラハラ、ドキドキが、女を美しく香らせる。



S A S O

パルファム……………20ml 11,900円 表示価格は税抜希望小売価格です。

REIKO HIRAKO



ATELIER SAB CO.,LTD.

03-3475-7801(PRESS) 03-3475-7861(SALES)

SHOP LIST (MAIN)

TOKYO DAIKANYAMA A DEUX 03-5489-2275

NAGOYA PARCO 3F 052-264-8214

KYOTO SAB'S HOUSE 075-256-7531

FUKUOKA SOLARIA PLAZA 3F 092-733-7333

SPRING/SUMMER COLLECTION 1992



JA

'92 SPRING & SUMMER COLLECTION

"Open And Free"



jun ashida

jun ashida 1-3-3 Aobadai Meguro-ku Tokyo 153

jun ashida Paris 34 Rue du Faubourg-Saint-Honoré 75008 Paris





花井幸子創作20周年、芦田多恵デビューなど 話題の多かった今シーズンの東京コレクション

色鮮やかなドレスで埋まった
創作20周年の花井幸子



東コレ会場の有名人。秀香と小西良幸

菊池武夫ファミリー



ミス・アシダでデビューし
た芦田多恵（上）比嘉京子、
甲賀真理子、太田記久（左）

MAMORU MIYAZAWA

東京コレクションが始まったのは11月1日から。今回は10月末にメンズデザイナーが4日間にまわってショーを開き初のメンズデイが設置された。レディースはその後に開かれた。

今回はこれまで海外ブランドブームに押され続けていた国内のデザイナーにとって明るい兆しのみえるシーズンであった。あるジャーナリストは、その理由として湾岸戦争、そして日本のバブル経済の崩壊を挙げている。

「ひとつには湾岸戦争による心理的な高額商品の買い控えがある。今年3月まで続いた湾岸戦争で、自分達ばかりが高い服を身につけていていいのだろうか。世界にはまだまだ貧しい国があるのだ。贅沢もほどほどにしなければ——といった感覚が戻ってきている。そうすると高けりゃいい、お金持にみえる服ならなんでもいいといった気持ちが急速にしばみ、手ごろな価格帯の商品に目がいくようになっている」

そして、バブルの崩壊は単純に日本経済の先行きの不透明さを暗示し、消費を控えるようになるとジャーナリストは指摘する。80年代のお金持ちになろうとした、もしくはみせようとした時代風潮が海外ブランドブームを生み出したとはいえ、90年代に入って時代背景は大きく変わろうとしている。

「80年代後半は東京のデザイナーブランドは何をやっても売り上げの効果をあげることはできなかった。服を買いに来る人はイタリアもの、フランスものとヨーロッパの名前の通ったブランドものを手に入れることしか考えてなかった。口

の悪い人に言わせれば猫も杓子も海外ブランドと言った調子で、国内ブランドは製品がどれだけいいと言っても振り向いてくれなかった」とはある国内ブランドのスタッフだった。

80年代から90年代にかけて、大きな時代のうねりが今訪れようとしている。ファッションの世界でも決して例外ではなさそうである。

東京デザイナーにとってそうした大きな転換は明るい兆しとなっている。今シーズンの東京コレクションは、実際の売り上げが急速に回復しているとは言えないものの、心理的には明るい材料がみえだしてきた時期といえるだろうか。

「これまでのように海外ブランドならなんでもということとは少なくなっている。しかし、それに代わって東京デザイナーの服が全て良くなるというものかどうかと思う。むしろ、これからは海外とか国内とかいった国籍による区別ではなくて、良い物と良くないもの、高い商品と高くない商品というように、商品そのものの質と値段が問われる時代になるでしょう」とジャーナリストは指摘した。

或る意味で今シーズンは選ばれた人は残ったといえるシーズンでもあった。一時はアパレルメーカーのショーを含めて100以上のショーが開かれた東京だが、今回は70以下にショーの数は減った。残るべくショーは残ったというのは、そういった意味を持っている。

残ったメゾンのなかで今回話題となったのは花井幸子と芦田多恵。

今年アトリエを設置して20周年を迎えたのが花井幸子。世田谷の小さなアト

リエでオーダーを中心としたメゾンでスタートしてから20年が経った。今年初めには社員全員を分けて海外旅行に連れていったという。コレクション会場では女性スタッフ全員にピンクとイエローのワンピースを着せた。ワンピースには花井20周年のアップリケがつけられていた。ステージもピンクと黄色に染められ、スタッフのドレスの色を加えて会場は一段と華やかになった。ショー後のレセプションで挨拶に立った花井幸子は、「ちょうど今年は私がアトリエを開いて20年の節目の年となりました。ここまで続けてこられたのも皆様のお蔭ですし、これからも一層頑張ってゆきたいと考えています」と話し、会場に一段と大きな拍手が沸き起こっていた。

そしてもうひとつの話題が、芦田淳の次女、多恵のミス・アシダデビューだった。

芦田多恵は高校、大学をスイスとアメリカで過ごし、大学在学中からニューヨークのデザイナーメゾンでアルバイトをしたり、パリのクチュールサロンのショーで裏方として働いたこともあった。大学ではファッションアパレルデザインを専攻し、デザイナーになることは、自分が小さい頃から決められていたことだと信じていた女性だ。

大学卒業時にはクリスチャン・ラクロワのメゾンで修業するツゲがあったにも拘らず、自らの意思で帰国し、6カ月のブランクの後にジュン・アシダのメゾンに入った。デビューまでの2年間に、それこそデザインから製作、ライセンス管理まで幅広い仕事をこなした。

父、芦田淳からミス・アシダを継がせると言われたのは昨シーズンのコレクションが終わった直後だったという。しかし、ミス・アシダはこの1年以上彼女のスケッチのほとんどが採用されていた。

「いつかこういう日が来ることは分かっていました。でも、いざその日が来るとどうしようというのが正直な感想です。今は素直に自分の思うままを作品にしようと考えています。自然体が一番いいのですから」と芦田多恵は話している。今回のコレクションに関しては芦田淳の手は一切入っていない。以前であれば芦田多恵が作った作品をチェックし悪いところは容赦なく直したそうだが、「父は私に継がせると決めてからミス・アシダの作品を意識的に見ないようにしているようです。父の性格から言ってもそうですが、見ると必ず直したくなるようですから、最初から見ないようにして」と多恵はいたずらっぽく笑っていた。

東コレの初日でもある11月1日に発表されたミス・アシダコレクションは、どれも美しいシルエットの作品ばかり。新人デザイナーのような服づくりの幼稚さはみじんも感じられなかった。やはり、ジュン・アシダのメゾンがしっかりしているせいだ。ファッション界では珍しく2世デザイナーの誕生だった。

こうした明るい話題が続いたこともあって、今シーズンの東コレ会場には互いにコレクションを観ようと、デザイナーの顔が幾つもの会場でみられた。これも、今シーズンの東京コレクションの明るい話題のひとつといえるだろう。

49 AV JUNKO SHIMADA TOKYO PARIS



LECIE PLANNING CORPORATION 6-23-3 Jingucho, Shibuya-ku, Tokyo 150 Tel. 03(3797-3051

長く続く経済不況の暗い影が落ちるNY 今年になって2メゾンが閉鎖という

アメリカ経済のリセッション（景気後退）は相変わらず続いている。正確に言えばリセッションは終わっているが、経済は相変わらず悪い。特に91年に入ってからますます悪くなっていったというのが実情だ。リセッション終了で景気は底を打ったというもの、例えばブルーミングデイルズやニーマン・マーカスなどの有名百貨店では前年割れの売り上げ高だといわれる。

「今売れているのはエスカーダなどのボリュウム商品。高級品は売り上げが全然良くない」と語ったのはブルーミングデイルズのバイヤー。今年に入ってバイヤーたちは価格帯の洗い直しを行っている。経済の悪化によって消費者が値段に神経質になっているためだ。

そうした景気の波をモロに食っているのがニューヨークのデザイナーブランドだ。エスカーダのような中価格帯の洋服は以前より売れているものの、高価格帯であるデザイナーブランドはほとんどのブランドが前年の売り上げを確保できていない。前年比と同じ売り上げを獲ったのはせいぜいラルフ・ローレンぐらいだとも言われている。

例えばこの3月からニューヨークの大御所デザイナー、オスカー・デ・ラ・レンタがパリコレクションでもショーを開くことにした。これはアメリカのデザイナーにとって大きな方向転換を意味する出来事だった。というのは、ニューヨークのデザイナーにとってパリコレ参加はこれまで全く考えもしないことだ。世界で一番大きなマーケットであるアメリカの中心ニューヨークでコレクションを発表し全米で商品が売られていれば、彼らはそれで十分だったのである。

それがアメリカのマーケットの長期不況、また92年のEC統合により世界一のマーケットの座はヨーロッパに移るといふたつの原因がデ・ラ・レンタがパリでコレクションを発表しようという大



キャロライン・ローム

な理由だった。デ・ラ・レンタはパリコレ参加について「これは私にとって大きな投資だ」と話している。

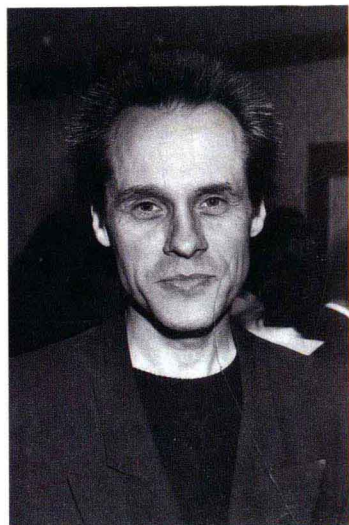
今はニューヨークにとって苦しい開きの時期であるともいえる。全米の店で洋服が売れなくなり、そうしたしわ寄せがデザイナーブランドに波及しているせいか、この夏以降、ふたりのデザイナーがショーを中止、もしくはメゾンを閉鎖した。ひとりにはキャロライン・ロームで、もうひとりにはシャマस्कだ。

この9月に入って突然メゾンを閉めたのはキャロライン・ローム。

「今の経済下ではコレクションをはじめアトリエの継続資金の回収が今後ますます難しく環境にあるといえます。いろいろと悩みましたが結局メゾンを閉めることにしました」とコメントしたのはキャロライン・ロームだった。

ロナルド・シャマस्कがショーを中止したのは、もうひとつの理由があった。これまでのパートナーと決別し商標権をめぐるトラブルが発生した。シャマस्कという名前まで先方に押えられたことが、シャマस्कと元パートナーとの仲たがいを決定的にしたようだ。いずれにせよシャマस्कやロームのような例は今後さらに増えるだろうとあるジャーナリストは指摘している。

「アメリカ経済の悪さは今後もデザイナーブランドの重い足かせとなってゆくだらう。洋服が売れないとなればコレクションの費用はだせなくなるだろうし、広告、販売費もまかなえなくなるだろうから。それにショーの時のモデル代がどんどん高くなって、それこそコレクション費用は当然無理でしょうから」



ロナルド・シャマस्क



阿部尋一

東京でのコレクションのため 帰国した阿部尋一

東京でのコレクションのために阿部尋一が一時的帰国した。パリのオートクチュリエ、エマニュエル・ウングロのもとで7年間モードを学んだ後に独立。パリのプレタポルテでコレクションを開くようになって1年経ったデザイナーだ。パリのアトリエはサントノレ通りにある。1階はジン・アベのブティック。パリのド真中にアトリエとブティックを構えている。

この3月には、サンジェルマン・デ・プレの中、ジェネラル通りに2店目のジン・アベブティックを開いた。サントノレ通りの店が木の色を基調としたシックな店なら、デ・プレの店は、アール・デコをベースにしたモダンな造りと言えるだろうか。「何故か分からないけど、パリにきた頃からブティックは左岸にというのが昔からの夢でした。私の狙っている女性というの、どちらかといえば左岸の大人っぽいデカダンスなイメージだったから」と、初めて左岸に店を構えたことに喜びを隠せない様子だった。

「左岸の人達って、自分のスタイルを持っている。昔から左岸には多くの芸術家が集まっていたし、例えばサンジェルマン・デ・プレのカフェには芸術家が集って、当然、そうした女性も多かったから……」

念願の左岸ブティックオープンに続いてこの夏には、昔から大好きなオペラの

衣装をデザインした。演目はモンチペルディの『オルフェ』。

「凄く楽しかった。例えば、私達がやっているファッションショーって、洋服をモデルに着せて、モデルはステージをたっ」と歩いてすぐぬいでしまいますね。それがオペラだと着て延々とステージに立っている。それもドラマティックな照明に照らされて……。実際作っている本人が言うのも変なんですけど、ステージに上がった自分の衣装をみて、なんて美しいなんて自分で感動してしまいました」

「それに、オペラとファッションショーは、全然違う。何て言うか、ファッションショーはやっている最中に、いつも孤独になる。スタッフと一緒にやっているのだけど、最後は全て自分で責任を取らなければなりません。ショーの後のジャーナリストの反応、実際の洋服を売ってみて、売れたとか売れないとか……。その責任を全部被らなければならないので、どうしても自分と向き合って孤独になる。でも、オペラはステージの上にはそれこそ数人しか登らないのだけど、その裏には大道具、照明、音響さんを含めて何百人もの人が働いて妙な連帯感があって、あれは感動しますね」

師であるウングロ譲りのオペラ好きである阿部尋一のオペラの話は尽きなかった。

HIROKO KOSHINO



着物と日本の風土の出逢いで 日本人の美意識を見事に視覚化

「日本の美・きもの」は観ているだけで楽しくなる美しい着物の本。
わたし達に野々本（ののほん）の美しさを再認識させてくれる。

21世紀を間近にひかえ、現在の日本で顕著なのは急速なスピードで進む国際化。あらゆる分野で外国との関係が深まり、国際感覚をしっかりと身につける必要性が叫ばれている。

真の国際化に必要なこと。それは外国語や外国の事情を知ること以上に、自分の国を見つめ直すことだと言えるだろう。

特に四季の移り変わりが美しい独自の風土から生み出された日本人固有の美意識は、国際化時代の今こそもっと見つめ直されるべきだ。

そんな考えのもと、日本の美の象徴のひとつと言える着物の本が企画された。毎日新聞社刊の毎日グラフ別冊保存版「日本の美・きもの」がそれだ。

着物の本は数多くあるが、この本のユニークな点は、着物を海や山等、さまざまな日本の美しい自然をバックに撮影している点。日本の美の集約である着物と

日本の風土が出逢うことで、日本人の美意識が見事に視覚化されている。

登場する着物は、小泉清子、花井幸子、渡辺雪三郎、コシノ ジュンコ、斎藤三才、コシノ ヒロコ、鳥居 ユキ、千穂、森英恵、ホリ ヒロシ、桂由美の全11ブランド。いずれの作品も作り手の個性が伺え、華やかな競演となっている。

各デザイナーの日本の美に対してや自分の美意識についてのインタビューも掲載されていて、こちらもとても面白い。

「いつ見ても突き動かされるような感動を呼ぶ着物を作り続けたい」（花井幸子）、「日本という東の美を西洋に投入し、西洋の美を東に投影する。この相乗り作業を追い求めてきたように思います」（森英恵）

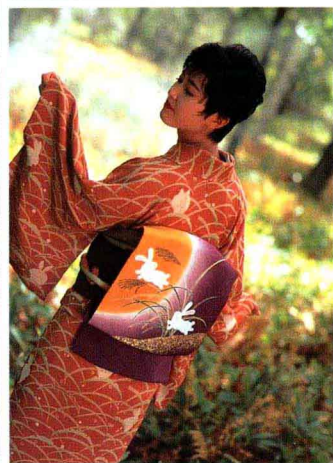
さらに、本の内容を深めているのが、阿久悠による巻頭エッセイ。これは日本人の美意識、日本の伝統美をテーマにして、独自の視点による読みごたえのあるものに仕上がっている。

また華道の着物と華道との関係を茶道裏千家の白山百合子が着物と茶道についての関係を語っているのも大変興味深い。

美しいページを1枚1枚めくっていると、あらためて着物の美しさと日本の風土の美しさに気付く。そして自分達の持っている美しいものにもっと目を向けるべきだと思う。そんな意味で、これは多くの人に読んでもらいたい1冊だ。



本のなかに収められている「きもの」コレクション



第3回を迎えた神戸ファッションフェスティバル 今回は4人の神戸クリエイターとイタリアがテーマ

11月17日と18日にわたって第3回神戸ファッションフェスティバルが開催された。これは神戸市と民間が協力してファッション都市神戸を日本の内外にアピールしようというイベントだ。

11月17日にはまず神戸を拠点としてデザイン活動が続けるデザイナーたちのジョイントショーが発表された。デザイナーは4名。ワールド「ビルダ・ジュエル」のチーフデザイナー近藤徳明、ヴァレン「アルティサンサック」「サベ」のデザイナー半田美智、ジャヴァグループのロートアレモン「アトリビス」のデザイナー山本ちよ子、イズムグループの「アーズ」のデザイナー若井和光の4人が春夏コレクションを発表した。構成は安西水丸、スタイリストに木村茂、原由美子が加わった。今年になってオープンした近代建築、神戸ファッションマートの9階のホールでショーは1時間弱にわたって披露された。

翌18日は招待デザイナー、マウリッツィオ・ガランテのコレクション。ミラノコレクションで頭角を現わし、2シーズン前からはパリコレクションに移った若き実力派デザイナーだった。

そして今回のKFFのもうひとつのイベントは、10月19日から12月8日にわたって神戸市立博物館で開かれてたジャンニ・ヴェルサーチ衣装文化展だ。2年前にイタリアで開催されたものに新しいコレクションを加えて、ヴェルサーチの衣装とデザインの歴史を辿ったものだ。イタリア以外の公開は世界で初めてのことであった。

神戸の4人のデザイナーを集めた神戸クリエイション91マウリッツィオ・ガランテ春夏コレクション、そしてジャンニ・ヴェルサーチ衣装文化展の3つがKFFのイベントだった。

外国人の拠留地として発展した神戸はこの3年にわたって海と山が隣接する美



(左より) 山本ちよ子、半田美智、近藤徳明、若井和光、安西水丸、畑崎廣敏 KFF実行委員長

しい街並を武器にファッション都市のイメージを内外にアピールしようとしている。神戸ファッションマートというファッション関連企業の複合ビルを開いたり、埋め立て地のポートアイランドに積極的にアパレルメーカーを誘致したり、行政が積極的に大政策を打ちだそうとしている。

また、KFFが終了した翌日からは大阪府主導で大阪ファッションフェスティバル

(OFF) が開かれ8人のデザイナーがコレクションを発表している。

これまで東京主導だったファッションマップがKFFやOFFのイベントを契機に関西にその新興勢力が根づき育つかどうか今後注目したい。

また、そうした互いの刺激の在り方はファッションビジネスやクリエイターの育成にとって良いということはイタリアの例をみるまでもなく明らかである。

HIROSHI ITO

BY LA-BREA



YOSHINAGA CORPORATION

ヨシナガ株式会社

1-4-4, Yanagibashi, Taito-ku, Tokyo 111 Telephone: 03-3864-3961

LB-241 Reddish brown/Yellow ¥30,000

ソウルのデザイナーが集まって開かれた ソウルコレクションも今回で3回目を迎えた

東京コレクションが終わって翌週の11月20日から3日間にわたって12人のデザイナーがコレクションを発表するソウルコレクションが開催された。ソウルで長いことデザインを続け、何回もイベントがらみでコレクションを発表してきたソウルの大御所、中堅デザイナーが集まって構成されたソウルファッションデザイナー協会(SFA)が母体となるソウルコレクションも今回で3回目となった。会場は今回イベントホールに移動。椅子席950の会場も最終日は会場に入りきれない人がでるほどの盛況で12のコレクションで約2万人もの観客が会場に押しかけた。これまで韓国でシーズン毎に作品を発表するデザイナーがいなかったばかりか、デザイナーがまとまってコレクションを発表するソウルコレクションには多くの関心が寄せられている。会場には関係者や専門学校の生徒をはじめ韓国の数少ないファッション誌を含めたジャーナリストやテレビ関係者が入場した。ショーの様子は毎日、韓国の人気テレビ番組KBSの「ナイン」で放映されていた。

ソウルコレクションの費用は今回3億ウォン。第一回目比べて2倍以上になっている。これはソウルコレクションに対する関心が高まるにつれ会場を大きくしたり、会場内の施設を充実したりするためだ。

第3回目を迎えたソウルコレクションの関心の高さについて、SFAの会長でありデザイナーのチン・テオクは次のように語っている。

「シーズンを重ねるごとに韓国での関心は高まってきています。それ以上に私達が痛感しているのはSFAによって他のデザイナーの意識が変わってきていることです。これまで韓国には年2回のコレクションというものがなかった。私たちも年2回行なうように一生懸命努力していますが、他のデザイナーたちもそうしようとしてきています。また、デザイナーである以上コレクション発表が欠かせないものであるという意識もできています。デザイナーをはじめ、ファッションに携える人々の意識が変わってきていることが私達にとっては嬉しいことです」

SFAは今後デザイナーの数を増やす方向にある。すでに発表されているところでは来年4月には、2名が加わり14名の布陣となる。加わるデザイナー名は、ベイ・ヨン(男性、40歳代)ユイ・ファン・ヒー(女性、30歳代)。その次のシーズンには新たに5人との情報もある。新規デザイナー参加は、本人の申し出、ジャーナリストの認定、そして既会員の認定が条件とか。

「SFAは私個人のものではないので大げさに言うことはできませんが、会員として私個人の意見で言えば、デザイナーの

数を増やして国際的レベルにまで大きくしたいと考えています。振り返ってみれば韓国の洋服の歴史はとても短い。しかしその短い期間のなかで現在のレベルにまで達することができたのも、また韓国です。韓国のモードの発展の早さはおそらく世界でも1番ではないかと思っています」

ショーの最終日の打ち上げパーティでSFAの顧問が挨拶に立ち、「韓国の経済が良くない今にソウルコレクションが第3回を迎えることができました。これからもコレクションを続けることでファッションの発信基地となって世界の舞台にでられるよう頑張りたいと思います」と語り、集まった関係者から盛んな拍手を受けていた。

また同じパーティで挨拶に立った韓国ファッション協会の孔錫鵬会長は、傘下団体であるSFAを取りまくファッション環境を次のように話した。

「一般的に良く言われるのは、韓国の国民性として、食べる文化はこれまで発展しているのに着るものである服は犠牲にすることです。今でも服は着られれば何でも良いという人がいる韓国でSFAが3回目を迎えたことは大変に良いことだ。SFAの発展は単なるファッションショーだけでなく生活文化そのものの発展と考えていいと思います」

併せて同じく挨拶に立った国際服装学院長は――

「50年以上ファッションの世界を歩み続けてきた私が、今日ショーを観ようと待ち続ける間、床に新聞紙をひいて座っている学生の姿をみて涙がでてくる思いでした。SFAは3日間で終わるが、ファッションへの情熱はずっと続いて欲しいと思います」

今年7月迄ファッションの衣料品、素材を含めて輸入が禁じられていた韓国も今は自由化され欧米のブランド品を自由に手に入れることができるようになった。ソウルで手に入るファッション誌も極めて少なく、昨年発行部数2万部のファッション誌も不振のため(販売と同時にメーカーが少ないため広告収入が極めて少ないため)に廃刊というのが韓国のファッション環境だ。それがSFAの出現によってショーの模様がテレビで放映され、そればかりでなく今年になってできたブサンにある百貨店にはSFAの12会員すべてがブティックを構えたという。SFA自体がファッション振興の核となりはじめている。

「この7月から衣料品や素材が自由化されました。しかし、私としてはこれからも韓国の素材を使っていたいと思っています。でも逆に服を作っていて一番苦労するのが素材であることも確か。特に色に関してで、気に入った色の素材を作る



スル・コンヒョン(左)のリハーサル風景

ヘア・メイクは日本のGEN(オタンティック)



リハーサル中に他のデザイナーたちと話を。(上写真左より)スル・コンヒョン、チン・テオク、パク・ハンチ、イー・ジェイ・ヨン、キム・チョルウン。ショーの出番表(左)



会場には祝いの花一杯



連日、多くの人がつめかけた。

ことは大変難しいことです」と、チン・テオクSFA会長。そして、最後に「3回目を迎えてSFAのやっていることは様々な意味で影響力を持ってきました」と話している。

フランス人モデル7名、韓国人モデル50名を2チームに分け、ヘア&メイクは今回、日本からGENをはじめオタンティックのスタッフ5名、韓国的美容師7名、そして演出は3回続けて行なっているライン・クリエイティブ・コミュニケーション。舞台裏では高麗エス・モードの学生30人が忙しく立ち動きコレクションが開かれた。今回までは1つの共通ステージだったものが、次回からはリハーサルの簡素化、ショーとショーの間の短時間化のために、隣り合わせた2つの共通会場を用意するとのことだ。

今回ヘア・メイクを担当したアーティストのGENは、コレクションを終って次

のように話している。

「確かに1つの会場で同じモデルたちを使い回すのは大変だった。ヘア&メイクの打ち合わせも韓国に入ってからで、全てに時間の余裕のないコレクションだった。でも、ソウルのデザイナーたちは皆がショーを開くことに本当に一生懸命で、つい私も懸命にやっちゃって大変でした。実際一緒にやってみて思ったことは、例えばソウルコレクションの作品はそのほとんどがスポーツウエア。パリのクチュールのような大人の服とはスタイルが違う。だからデザイナーの言うセクシーさとかシンプルさが僕たちのセクシーさ、シンプルさとギャップがある。韓国ジャーナリストは韓国の洋服は日本に比べて30年遅れているというけど、私はそこまでではないと思う。デザイナーたちが本当に一生懸命やっているのて10年後が楽しみだなと思った」

FASHION NEWS

International Fashion Collection

LONDON

- 20 ベティ・ジャクソン
- 22 ワーカー・フォー・フリーダム
- 24 ヘレン・ストーリー
- 25 ジーン・ミューアー
- 26 レッド・オア・デッド
- 27 ゴースト

TOKYO

- 34 島田順子/49AVジュンコ・シマダ
- 36 花井幸子/ユキコ・ハナイ
- 38 太田記久/ノリヒサ・オオタ
- 40 鳥居ユキ/ユキ・トリヅ・インターナショナル
- 42 宇治正人/ミューゼ・ドゥ・ウジ
- 44 甲賀真理子/マリコ・コウガ
- 46 平子礼子/レイコ・ヒラコ
- 48 芦田多恵/ミス・アシダ
- 50 磯村睦子/ヴィヴィダキコ・ニューヨーク
- 52 比嘉京子/キョウコ・ヒガ
- 54 コシノ ヒロコ/ヒロコ・コシノ
- 56 志村雅久/シムラ
- 58 川久保玲/コムデギャルソン
- 60 松田光弘/マダム・ニコル
- 62 阿部尋一/ジン・アベ
- 64 芦田 淳/ジュン・アシダ
- 66 西田武生/タケオ・ニシダ
- 68 森英恵/ハナエ・モリ
- 70 君島一郎/キミジマ
- 72 松居エリ/エリ・マツイ
- 74 前田徳子/トクコ・ブルミエヴォル
- 76 鈴木慶子/ケイコ・スズキ
- 78 渡辺雪三郎/ミッチ・インターナショナル
- 80 菅井英子/デコ・スガイ
- 82 馬場和子/イントゥリーグ
- 84 遠藤裕子・千葉美恵/ニコル
- 86 佐々木一美/ニコル・クラブ
- 88 安部兼章/ケンショウ
- 90 大川ひとみ/ミルク・O.D.O.B.
- 92 高田賢三/ケンソー
- 94 伊藤和枝/カズ・イトウ
- 96 白浜利司子/リツコ・シラハマ
- 98 菱沼良樹/ヨシキ・ヒシヌマ
- 104 山本寛高/カンサイ・ヤマモト
- 105 吉田ヒロミ/ヒロミ・ヨシダ
- 106 岸本一彦/K・キシモト

- 109 小西良幸/ヨシユキ・コニシ
- 111 英保優之/マサユキ・アボ
- 113 三宅一生/イツセイ・ミヤケ
- 115 コシノ ジュンコ/ジュンコ・コシノ
- 117 前田淳子/ジュンコ・マエダ
- 119 継枝幸枝/イニユース・バイ・ユキエ・ツグエダ

OSAKA & KOBE

- 122 和泉道子/ミチ・ラポーテ
- 124 キム・チャンスク/キム・チャンスク
- 126 古川雲雪/ウンセツ
- 128 平戸鉄信/クレアモント
- 130 近藤徳明/ノリアキ・コンドウ
- 133 山本ちよこ/チヨコ・ヤマモト
- 135 若井和光/カズミ・ワカイ
- 137 半田美智/ミチ・ハンダ

NEW YORK

- 140 ダナ・キャラン
- 142 ラルフ・ローレン
- 144 ベリー・エリス
- 146 カルバン・クライン
- 148 アン・クライン
- 150 アイザック・ミズラヒ
- 152 ビル・プラス
- 154 マイケル・コース
- 156 バイロン・ラース
- 157 マリーナ・スナイダー
- 158 アイザーニ
- 159 アンナ・スイ
- 160 クリスチャン・フランシス・ロス
- 161 カーメロ・ボモドーロ

SEOUL

- 166 チン・テオク/フランソワ
- 168 リー・シンウー/オリジナル・リー
- 170 スル・ユンヒョン/スル・ユンヒョン・ブティック
- 172 ジー・チュンヒョー/ミス・ジー・コレクション
- 174 バク・ハンチー/オクトン
- 176 ハン・ヘザ/イタリアーナ
- 178 キム・チョルウン/キム・チョルウン・モード
- 179 オウ・ウンハン/オウ・ウンハン・ブティック
- 180 キム・ドンスン/ウルティモ
- 181 ルビナ/ルビナ・ブティック
- 182 キム・ヒーチン/キム・ヒーチン・ブティック
- 183 バク・ユンスー/オール・スタイル・バク・ユンスー